

八、施設・設備等

[到達目標]

教育研究組織の規模の変化に対応して、適切な施設・設備を整備し、効果的な活用を図ると共に、教育研究上の変化やニーズに対応した更新を行う。

(1) 大学・学部における施設・設備等

(施設・設備等の整備)

大学・学部の教育研究目的を実現するための施設・設備等諸条件の整備状況の適切性

[現状の説明]

本学は、松山市の中心部近く松山城の北の麓に広がる文京の地に位置する。経済・経営・人文・法の4学部および大学院経済学研究科・経営学研究科(2006(平成18)年4月大学院社会学研究科・薬学部医療薬学科開設)は、ともに同一のこの文京キャンパス内にあり、施設・設備等を共有している。

校地は、文京キャンパス、御幸キャンパス、御幸グラウンド、久万の台グラウンドに西宮温山記念会館等まで含めると総面積196,215.9㎡となる。

校舎は52,256.5㎡、体育施設や学生会館等の附属施設は29,512㎡、合宿・研修施設や寄宿舍等のその他の施設を合計した、校舎等の建物の総面積は82,848㎡である。

文京キャンパスにおいて、教室棟としては、1号館、2号館、3号館、4号館、5号館、7号館、8号館がある。2006(平成18)年4月開設の薬学部校舎(10階建)を現在建設中であり、共同機器室・RI実験室・図書室・実習室・研究実験室・病院薬局実習室・動物実験施設等を配置する計画で進行中。完成すれば13,062.87㎡が増加する予定である。

1号館1階は学生課、2階はカウンセリングルーム、3・4・5階は主にゼミ教室として使用されている。2号館1階は300人規模の教室、2階は600人規模の教室が2室ある。3号館の1階は保健室と400人規模の教室、2階は教室2室がある。4号館は主に語学の教室棟で、1階には短大事務室・談話室、証明書自動発行機室が、2階から4階にはAV教室やLL教室があり、2階にはAVライブラリーがあり図書館と並んで本学のAVシステムの中核となっている。5号館は主に200人規模の教室棟で、1階には教務関係の事務室がある。7号館は主に80人から100人規模の教室棟がある。8号館2階には220インチ・スクリーンを配した500人規模のAV教室が2室、4階には150インチ・スクリーンを配した300人規模のAV教室が2室あり、各々に最新の設備が導入されている。4階・5階は教室およびゼミ教室として使用、6階の情報処理室と7階の教室にはあわせて800台を超えるパソコンが設置されている。特に、教育方法改善のために教室のAV化に取り組み、2005(平成17)年度から2006(平成18)年度にかけて、2号館、5号館、8号館を中心にAV化設備投資を継続して実施中である。

教員や学生の教育研究活動を支える図書館は、蔵書数が98万冊を超え中・四国私大で最大規模を誇る。

御幸キャンパスには、バスケットコート2面とバドミントンコート8面を同時に確保できるメインアリーナ、日本水泳連盟公認の50mプール、柔・剣道のための彰廉館、サブアリーナ、トレーニングセンター、サークルボックス等を設けている。御幸グラウンドには、サッカー場やテニスコート等がある。

久万の台グラウンドには、300mトラックを擁する5種競技公認の陸上競技場、硬式・準硬式野球のグラウンド、アーチェリー練習場、馬場、自動車練習場などがある。

このように、御幸キャンパスをはじめとする体育施設は、総合運動施設として体育授業や課外活動に全国規模の各種大会など有意義に利用されている。

兵庫県西宮市にある松山大学西宮温山記念会館は、本学教育研究の関西での拠点として学生のゼミナール活動や研究会議などに利用されている。

大学院生については、専用の共同研究室が用意されており、専用の講義室やパソコンも備わっている。専任教員の研究室については、一人につき1研究室が提供されている。非常勤教員については、共用ではあるが、パソコンや印刷機が隣接された控室をもっており、教材の準備等ができるように配慮されている。

[点検・評価][長所と問題点]

上記施設・設備の拡充については、1991(平成3)年3月に情報化に対応するため8号館が、1994(平成6)年8月に厚生施設充実のためにカルフル(厚生会館)が、1996(平成8)年3月に図書館の増築が、1999(平成11)年3月に本学の歴史と伝統を継承するために温山記念会館が、2000(平成12)年9月に国際交流の拠点として国際交流施設が建築された。

学術資料の記録・保管については、図書館と総合研究所が適切に行っている。また、国内外の大学院・大学との図書館等の学術情報・資料の相互利用については、特に図書館が適切に行っている。

上述の通り、本学の施設・設備等については、学生からの評価も高く、かなりの水準にあると言える。

大学院の施設・設備等については、まず学生専用の研究室(大部屋)があり、個人専用の研究用机とロッカーが割り当てられている。近年の学生増に対しても個人スペースを狭めることなく、増設が図られており、この面では適切である。しかし、もともと大部屋研究室として建築された施設ではないため、季節によっては昼でも暗いスペースがあり、また夏季および冬季において冷暖房時間が限定されていて、学生が十二分に使用しがたい側面もある。また、大学院専用の講義室は不使用时间をはるかに多いほど用意されており、適切といえる。さらに、大学院学生専用のパソコンおよびプリンターを共同研究室内に設置しており、設置数も可能な限り増設を心がけている。

[将来の改善・改革に向けた方策]

18歳人口が激減するなかで、教育・研究内容の改善・改革と同時に施設・設備の充実を図り、如何に魅力のある大学とするかは、常に意識して取り組まなければならない課題である。また、その必要性については、学生等の要望を聴取しつつ、教育・研究の目的に向けた施設・設備等の予算措置を講じることが不可欠である。現在、2006(平成18)年度以降の教育・研究施設の更新・耐震補強計画及び設備の更新・改善計画の策定に着手している。学部学生並びに大学院生のニーズも時代とともに変化するので、今後も相互に意思疎通を図り、きめの細かな配慮を維持して行くことが必要である。

教育の用に供する情報処理機器などの配備状況

[現状の説明]

本学の情報処理教育教室は、8号館が拠点となっており、AVライブラリーのある4号館とあわせてほとんどの情報処理機器がこの2つの建物に集中配備されている。とりわけ、8号館の6・7階の情報処理教室にはインターネット環境が整備されたパソコンが配備され、6階には情報教育課の事務室がある。本学のネットワークの本格的整備は、学内LANの構築が1995(平成7)年度から始まり、今では幹線が1Gbpsの光ケーブルで結ばれ、支線は100Mbps、愛媛大学とのSINETノードの回線速度は100Mbpsである。教育で必要となる基本的な情報処理機器等の配備は、情報教育センター運営委員会において、より教育効果が高いと思われるものから優先的に取り上げ、教育環境の改善に努めている。8号館等の各教室等に配備されている情報処理機器等の概要は、次の通りである。

情報処理関連教室設備一覧

教室名		常設PC			プリンタ	スキャナ	画像 投影 装置 (*2)	情報 コン セン ト (*3)	電源 コン セン ト	無 線 LA N (*4)	備 考
		種 類 (*1)	OS CPU (CLK)	台 数							
870	教卓				1(*a)		PRJ	1	1		持込 PC で PRJ 使用可(教卓のみ)
	座席				8(*a)			96	96		
871	左側	D	WinXP Celeron(2.5GHz)	15	1						自習室
	右側				1(*a)			10	10		
872	教卓	N	WinXP Celeron(2.2GHz)	1	1		PRJ				持込 PC で PRJ 使用可(教卓のみ)
	座席			104							
873	教卓	N	WinXP Celeron(2.2GHz)	1			PRJ				持込 PC で PRJ 使用可(教卓のみ)
	座席			104	1						
情報 処理室 1	教卓	D	WinXP Celeron(2.5GHz)	2	3	1	PRJ				
	座席			30							
情報 処理室 2	教卓	D	WinXP Celeron(2.5GHz)	2	3	1	PRJ				
	座席			30							
情報 処理室 3	教卓	D	WinXP Pentium3(1.4GHz)	2	3	1	PRJ				
	座席			30							
情報 処理室 4	教卓	D	WinXP Pentium3(1.4GHz)	2	3	1	PRJ				
	座席			30							
情報 処理室 5	教卓	D	WinXP Pentium3(1.4GHz)	2	3	1	PRJ				
	座席			30							
情報 処理室 6	教卓	D	WinXP Celeron(2.5GHz)	2	3	1	PRJ				
	座席			30							
準備室	教卓	D	Win2000 Pentium3(800MHz)	3	2		1	PLS			持込 PC で PRJ 使用可(教卓のみ) NW 利用不可
	座席			26							
861		N	WinXP Celeron(2.2GHz)	16	1						
850					20(*b)						プリンタ室 NW 利用不可
840		N	WinXP Celeron(2.2GHz)	24	1						
841	教卓						PRJ	1	1		持込 PC で PRJ 使用可(教卓のみ)
	座席							90	90		
842	教卓						PRJ	1	1		持込 PC で PRJ 使用可(教卓のみ)
	座席							90	90		
843	教卓						PRJ		1		持込 PC で PRJ 使用可(教卓のみ)
844	教卓						PRJ	1	1	○	持込 PC で PRJ 使用可(教卓のみ)
	座席							80	210		
845	教卓						PRJ	1	1	○	持込 PC で PRJ 使用可(教卓のみ)
	座席							80	210		

学生ロビー(1)	D	WinXP Celeron(2.5GHz)	4				4	4	
学生ロビー(2)	D	WinXP Celeron(2.5GHz)	4				4	4	
820	教卓					PRJ	1	1	持込 PC で PRJ 使用可(教卓のみ)
821	教卓					PRJ	1	1	持込 PC で PRJ 使用可(教卓のみ)
440	教卓					PRJ	1	1	持込 PC で PRJ 使用可(教卓のみ)
441	教卓	MacOSX G5 (1.8GHz)	1	4	1	PRJ			持込 PC で PRJ 使用可(教卓のみ)
	座席		60						
442	教卓	N	Win98 MMX Pentium	1	1		PRJ	1	教卓に LL マスタ 1 台有 NW 利用不可
430	教卓					PRJ	1	1	持込 PC で PRJ 使用可(教卓のみ)
431	教卓					PRJ	1	1	持込 PC で PRJ 使用可(教卓のみ)
432	教卓					PLS		1	持込 PC で PRJ 使用可(教卓のみ)
433	教卓					PRJ	1	1	持込 PC で PRJ 使用可(教卓のみ)
420	教卓					PLS	1	1	持込 PC で PRJ 使用可(教卓のみ)
	座席						16	16	
421	教卓					PLS	1	1	持込 PC で PRJ 使用可(教卓のみ)
AVライブラリー1	D	MacOSX G5 (1.8GHz)	4						
カルフルー 2F	D	WinXP Celeron (2.5GHz)	3						○

(*1)N…ノート型パソコン、D…デスクトップパソコン

(*2)PRJ…プロジェクター、PLS…プラズマディスプレイ。

(*3)情報コンセントは、持ち込みPCで有線LAN接続可(要LANケーブル、IPアドレスは自動取得)。

(*4)無線LANは、持ち込みPCで無線LAN接続可(IPアドレスは自動取得)。

(*a)持ち込みPCでプリンタ使用可。LAN接続のレーザープリンタ。

(*b)持ち込みPCでプリンタ使用可。LPT接続型のドットインパクトプリンタ。

[点検・評価]

こうした設備状況は、次のような取り組みによって整備されてきている。2002(平成14)年度には私立大学等研究設備整備費等補助金の交付を受け、学内LANの再構築を行い、セキュリティとマルチメディア教育に対応したネットワークシステムを整備した。2004(平成16)年度には、教育用パソコン387台をリプレースしたほか、2005(平成17)年度からスタートする全学部入学生を対象としたパソコンの必携、共通教育科目としての新設科目「ITスキルズ」の必修化に対応するため、8号館の一部教室に電源や情報コンセントを増設し、合わせて関連施設の整備を行った。また、英語の必修化など言語文化カリキュラム変更に伴う対応としては、4号館(主に語学教育棟)の殆どの教室について教卓へ情報コンセントを新設し、電源コンセント、プラズマ又はプロジェクター、OHC・DVD装置等を設置するなどの対策を講じた。特に、441番教室については、Mac(iMac G5)対応の教室として61台をリプレースし、レーザープリンタ4台、スキャナ1台、プロジェクター、OHC・DVD・VTR装置等を完備した。なお、この教室については、授業のない時間帯はCALL自習室として活用されている。関連して、自習用で用いるパソコン室の指定は日にちによって異なるが、8号館6階の掲示板で翌週までの予定を案内している。学生はホームページで日にちごとの自習可能な時間帯を参照することもできる。また各パソコン室に配備した機器類(プロジェクタやスクリーンも含む)もホームページ上で確認することが出来、教員は授業に必要な機器が揃う教室の最新情報を入手することができる。自習室としてのパソコン室開放は、授業のある期間では平日8時30分から19時45分まで、土曜日は8時30分から16時45分までとなっている。授業期間以外の開放については、ホームページ

と掲示板で学生に案内している。自習室には派遣職員や学生アルバイトを配置し、学生からの様々な質問やマシントラブルに即対応できる体制となっている。オフィスソフトウェアのスキルアップを目指す学生のためには、オフィスソフト関連の資格試験システムを導入したパソコン室も備えている。これによりパソコンによる同資格試験の学内試験実施を可能にし、多くの合格者数実績も挙げており適切な利用がなされている。

[将来の改善・改革に向けた方策]

少なからず情報処理機器が揃い、情報教育環境が構築されているが、こうした情報教育機器を限られた職員数で維持管理することは、極めて困難である。そこで、2004(平成16)年の7月からネットワークを安定稼働させるために必要なネットワーク保守、運用、監視、セキュリティ対策業務を外部委託した。しかしながら、サーバの停止等のトラブルが少なくなくサポート体制を見直すとともにハード面のアウトソーシングへの移行も視野に入れて検討する必要がある。また、外部からの不正アクセスやウィルスなど、セキュリティ対策を常に講じる必要があり、2005(平成17)年1月に立ち上がった情報セキュリティ委員会の役割は極めて重要なものになると思われる。ハードやソフト面でセキュリティを厳しくすることやディスクスペースに制限を設けることは、一方では利用者サービスの点からみると相反する側面もあり、妥協点を導く必要がある。セキュリティポリシーとその運用ルールを確立するためには、方向付けを徹底していかなければならない。また情報コンセントの利用は制限されているが、今後は認証システムの導入などにより、学生が持参したノートPCでいつでも自習できるよう、開放することが望ましい。電子教材を作成するスタジオや専門の教室、撮影編集スタッフ、授業コンテンツを配信するためのソフトウェア、サーバ類のハードウェア機器を設置していく必要がある。

社会へ開放される施設・設備の整備状況

1) 大学教育施設の一般開放

[現状の説明]

本学では、授業および課外活動に支障のない範囲で教室、体育館、グラウンド等の施設を近隣地域へ開放している。グラウンドの一部やプールについて、夏休み期間中に近隣の自治会にも開放している。

また、大地震などの災害発生時においては、市民の緊急避難先として松山市から指定されており、市との協力体制をとっている。

[点検・評価]

大学の施設を近隣の地域の団体等に開放している。用途は様々であるが、教室については、公的な資格・能力試験の試験会場として利用するケースが多い。また、グラウンド、体育館、武道場などについては、地域の児童から高校生、一般市民のスポーツ交流の場所としての機能を備えており、健全に利用されている。また、カルフル・ホールは、文化的な催し物やコンサートなどに利用し、文化的交流や人間性を育む場となっている。こういった催し物によって、開かれた大学としてPRできているものと評価している。

[長所と問題点]

市内中心部に位置する大学として、キャンパス内の施設は、アクセスもよくいろいろな活用法があり、ユーティリティに富んだスペースとなっている。施設的环境もよく、使用するものにとっても満足できる状況にあるものと考えている。ただ、キャンパス内には駐車スペースは限られており、開放のひとつの問題点としてネックになっているところである。

グラウンド等スポーツ施設の貸出において、安全性、管理面については、ある程度対応できていると考えている。事故防止については、利用責任者と意思疎通を密に行い、最大限の配慮をする必要があるものと考えている。

[将来の改善・改革に向けた方策]

大学施設として普段は学生の使用を優先としているが、長期休暇期間中の施設の閑散期には、できる限り広く利用できるよう考慮したい。

施設の一般開放(グラウンド、体育・文化施設)

年度	久万ノ台 グラウン ド	御幸 グラウン ド	御幸第二 グラウン ド	学内 グラウン ド	カルフル (ホール・会議 室)	御幸 キャンパ ス	彰廉館 (武道場)	計
1985年度	16	158	0	24	—	43	—	241
1986年度	16	114	0	21	—	21	—	172
1987年度	16	123	0	15	—	45	—	199
1988年度	10	133	0	22	—	492	—	657
1989年度	14	137	0	12	—	469	—	632
1990年度	12	110	0	5	—	312	—	439
1991年度	30	135	0	7	—	555	—	727
1992年度	29	145	0	2	—	499	—	675
1993年度	11	1	115	1	—	93	—	221
1994年度	1	4	91	12	1	19	0	128
1995年度	2	0	0	0	33	2	0	37
1996年度	2	0	116	0	0	6	0	124
1997年度	5	15	135	0	16	10	4	185
1998年度	11	24	131	1	43	14	4	228
1999年度	11	27	26	0	26	27	3	120
2000年度	31	29	144	8	60	35	3	310
2001年度	40	8	117	2	28	44	5	244
2002年度	130	81	124	0	120	38	7	500
2003年度	141	48	142	0	188	20	4	543
2004年度	148	29	128	0	66	10	1	382

大学教育施設の一般開放

年 度	貸し出しをした大学・団体等の数と貸出件数(他大学への貸出件数の内訳)
1999(平成11)年度	42 団体、 75 件(16 件)
2000(平成12)年度	43 団体、 82 件(14 件)
2001(平成13)年度	40 団体、 79 件(13 件)
2002(平成14)年度	44 団体、 94 件 (38 件)
2003(平成15)年度	39 団体、 106 件 (32 件)

2004(平成16)年度	38 団体、112 件 (42 件)
2005(平成17)年度	30 団体、86 件 (37 件) ※9 月 20 日現在

記念施設・保存建物の保存・活用の状況

1) 温山記念会館の施設開放

[現状の説明]

本学には、兵庫県西宮市に「温山記念会館」(旧・新田邸)がある。スペイン風の洋館と広大な庭園をもつ建物(敷地面積4,315㎡、建物は鉄筋コンクリート2階、一部地下1階)で、1928(昭和3)年に建設され、本学創設に尽力された新田温山翁ゆかりの新田家から1989(平成元)年10月に寄贈されたものである。この会館は、主に教員・学生のゼミナール合宿、研究会活動、サークルの部活動などの諸会合に利用されているが、西宮市の一般市民および近隣地域住民にも開放し、見学など来訪者の受け入れを行っている。

また、本学ホームページを通じて施設についてわかりやすく紹介している。

[点検・評価]

この温山記念会館は、西宮の閑静な住宅街に位置しているので、地域住民のご理解を得る必要がある。近年は、会館の学生の利用率も高まっており、また、施設の公開や利用促進に伴い、近隣の方々に騒音等の迷惑がかからないように配慮している。この点は、現在のところ大きな問題もなく上手く稼働していると評価できる。同時に、歴史ある庭園だけに、喬木も多く、落ち葉処理など庭園(樹木)の管理においても住民の方々に配慮する必要がある、近隣住民への対応を含め住み込みの管理人を配置し、適切な管理を行っている。

[長所と問題点]

同会館には、大学の資料を置いて自由に閲覧できるように、また資料の一部について持ち帰っていただくことは、広報活動に繋がり同会館開放のメリットにもなっている。また、こうした歴史的な洋館や庭園を公開していることで、本学の歴史や伝統を伝えることもできるのではないかと考えている。

しかし、古い洋館であるので、管理上配慮しなければならないことも多く、利用を促進しながら、かつ大切にいつまでも末永く保存していくという立場から、大々的に一般公開が可能というところまでには至っていないのが現状である。

[将来の改善・改革に向けた方策]

もっと同会館を広く一般の方々に見ていただくために、本学ホームページ等の媒体を利用し、同会館のことを周知させることが必要であり、希望者に対しては、都合に合わせた洋館・庭園等々の施設の公開が望ましいと考えられる。なお、本会館は登録有形文化財としての指定を受けるべく、現在、文化庁へ申請中である。

温山記念会館の施設開放状況

年 度	来訪者(温山会員を含む)	備 考
1989(平成元)年度	0名(0回)	平成元年10月に寄贈された。
1990(平成2)年度	48名(2回)	
1991(平成3)年度	14名(2回)	
1992(平成4)年度	33名(3回)	

1993(平成5)年度	21名(3回)	
1994(平成6)年度	107名(5回)	
1995(平成7)年度	16名(3回)	
1996(平成8)年度	20名(6回)	
1997(平成9)年度	45名(5回)	
1998(平成10)年度	80名(6回)	
1999(平成11)年度	211名(12回)	
2000(平成12)年度	128名(81回)	
2001(平成13)年度	56名(7回)	
2002(平成14)年度	不明	
2003(平成15)年度	274名(22回)	
2004(平成16)年度	328名(25回)	

(キャンパス・アメニティ等)

キャンパス・アメニティの形成・支援のための体制の確立状況

[現状の説明]

本学の文京キャンパス1号館1階には学生課および国際センター課があり、2階には学生生活や対人関係・家庭問題などの悩みの相談に応じるカウンセリングルームが設置されている。厚生会館のカルフールは1階が550席を備えた食堂となっており、2階は学生談話室および大学生協の購買施設がある。3階は照明や音響設備を備えた座席数約500席のホールがあり、学術講演会、式典、公演会、演奏会などに利用されている。

各建物については可能な限りアメニティを追求し、学生のキャンパスライフを快適でゆとりのあるものにするのを心がけている。学生同士のコミュニケーションをとりやすくするために学生談話室をキャンパス内各所に設けている。冷暖房の設備の充実化、バリアフリーへの対応として自動扉への切り替え、障害者用トイレの設置、エレベーターの設置、段差の解消、案内板の整備なども行われている。また、土地・建物の維持管理の面では、清掃、警備、ボイラー等について専門業者と委託契約を結ぶことにより高い専門の見地から環境保全と安全確保に努めている。キャンパス内でのベンチや樹木などの設置もおおむね適切になされている。今年度は学生からの要望により、学内トイレ数箇所にエアータオルを設置することになった。また、2004(平成16)年度より、キャンパス内を原則禁煙とし、大学内での受動喫煙の被害を防ぐことが可能となった。

[長所と問題点]

以上のように、本学のキャンパス・アメニティについては、比較的良好な状態にあるといえよう。文京キャンパスはコンパクトに建物がまとめられており、学生の移動という点で便利である。しかし、アメニティという点で、さらに改善すべき点があるとすれば、文京キャンパスに大学のシンボルとなるような建物が存在しないということである。建物は単に機能さえあればよいというわけではなく、その有意味性や象徴性も求められるということは、すでにポストモダン建築の思想が指摘していることであるが、本学キャンパスの建築物において、まさにこの象徴性・記号性・物語性の創出を追求することが今後の大きな目標になるのではないだろうか。建物が与える物語性や象徴性の共有(共同主観性の構築)によって、学生の大学へのコミットメントや連帯性も高まり、より快適で充実した学生生活を送ることができるのではないかと考えられる。

[将来の改善・改革に向けた方策]

上述のように、本学のアメニティは比較的充実していると思われる。とはいえ、学生にとってより快適なキャンパスライフを送るための改善作業は今後も継続していく必要がある。とりわけ、学生や院生の代表とのコミュニケーションをつうじて、たえず改善点を見出し、きめ細かな対応を心がけることが今後も重要であろう。また、それ以外に、シンボリックな建物の建設やさらなるキャンパス緑化などによって、アメニティをよりいっそう拡充することをさらに進めていきたいと考えている。

「学生のための生活場」の整備状況

[現状の説明]

大きく分けて、事前の許可等必要なく学生が自由に利用できる空間と、事前に許可を受ける等、利用に何らかの制約のある空間とがある。

[点検・評価]

1999(平成11)年度の自己点検・評価報告書を受けて、キャンパス・アメニティの改善という観点から学生の若者の心理や、生態等を十分に踏まえたうえで施設の改善を行っている。例として、学生寮の「有師寮」に交流学生ハウスとしての機能を加えて施設の改善を行ったこと、カルフル2階談話室にパソコンを設定しインターネットを利用可能にしたこと、キャンパス内では学生が自由に歓談するためのベンチ数を増やすこと等である。サークルに所属する学生は休み時間を部室で過ごす学生も多く、カルフルの食堂は自由に歓談できる場所としても機能しているため、全体的に見て屋内において学生が過ごすためのスペースとしては十分であろう。

しかし屋外においては、芝生がしきつめられているような、学生たちがくつろげる空間がほとんどないのが現状であり、学生が十分満足出来る空間を提供しているとは言い難いが、今後、薬学部棟周辺の整備を行うことなどを通じて、学生が共有する空間一般について学生のニーズを聞いてさらなる改善を行いたい。

大学周辺の「環境」への配慮の状況

本学御幸グラウンドでサークル活動が夕方から行われるため、これまで周辺の住民の方から騒音問題について幾度か苦情が寄せられてきた。数年前から御幸グラウンドに管理人をおくことにより、騒音に対する周辺住民からの苦情がかなり減少してきているが、今後の騒音問題に対処するために、設置の検討がなされてきた「学校法人松山大学周辺環境保全連絡協議会」(仮称)を設置すみやかに立ち上げて未然に問題発生を防止することが必要である。

もう一つの問題は本校キャンパス西側の駐車場近辺の騒音問題である。当該駐車場は周辺の住宅と隣接しており、登下校時には自動車、バイクの騒音が激しくなる。その中にはいたずらにマフラーを改造したバイクも含まれることがある。車・バイクの騒音は近隣の住民に精神的苦痛を与えると同時に、本学の社会的イメージを大きく損なうものである。学生委員会はこの問題を改善するため、バイクの学生課への登録を厳しく指導するとともに、2004(平成14)年度より、新学期の4月の1ヶ月間、道路から駐車場に入る門に警備員を配置し、取り締まることを実施してきた。本来であれば、取締りを恒常的に行うことが望ましいが、後期開始の1ヶ月間だけでも取締りを追加実施する必要があるであろう。

(利用上の配慮)

施設・設備面における障害者への配慮の状況

[現状の説明][長所]

本学の障害者への配慮としては、スロープの設置、車いす対応のエレベーター、車いす用トイレ、視覚障害者対応エレベーター、点字ブロック、点字や拡大文字の構内案内図等の設置が挙げられる。また障害者の自動車通学を許可し、車いす使用者が利用できる広さの駐車スペースを設け、構内への駐車を認めている。

[問題点]

キャンパス内にひとつおりのバリアフリー化の努力の跡が点在するが、建物がどのくらい最近に建てられた物かによって差がある。

温山会館のように階段に椅子式昇降機があるような建物がある一方、3号館や7号館のようにエレベーターが無いので車いすで2階以上の教室に行けない建物がある。東本館には車いす用トイレが無い。車いす用トイレが各階にあるのはカルフルーだけである。4号館と5号館は、5号館前のピロティ部分のスロープ以外、障害者が使用できるように配慮されていない。図書館内や各講義棟の教室内では、机と机の間隔が狭く車いすで移動しにくい。

[将来の改善・改革に向けた方策]

上記のような問題点を一つ一つ解消しすべての建物をバリアフリー化する検討をしていく一方、いたる所に段差解消板を設置するなど、手近な対処もあわせて早急に行っていく。

各施設の利用時間に対する配慮の状況

利用時間に学生に対する配慮が見られるのは特に図書館と8号館6階・7階の情報処理室である。

図書館は通常授業のない土曜日、夏期休暇中の平日、また定期試験期間中の日曜日等も開館し、学生が学習に利用しやすい体制になっている。

図書館開館時間

通常	9:00～22:00(平日)	9:00～22:00(土曜日)
夏季休暇中	9:00～16:00(平日)	休館(土曜日)
冬季休暇中	9:00～17:00(平日)	9:00～17:00(土曜日)
春季休暇中	9:00～17:00(平日)	休館(土曜日)

約450台のパソコンがオンラインで使用可能である情報処理室は、授業で使用しない時間帯には自習室として学生に開放されている。隣接しているノート型パソコン専用プリンタ室も学生に常時開放している。

また、8号館3階の東西に学生談話室が設けられており、新聞が常備されている西側は8:00～20:00、テレビが設置されている東側は8:00～21:30まで利用でき、学生どうしの交流を促進している。

将来的には、各施設の利用の動向を見た上で、学生にとってさらに利用しやすい使用時間帯を検討する。

(組織・管理体制)

施設・設備等の管理については、各種管理規定によって適正に管理・運営されている。施設・設備等の維持管理については、教務部・財務部管理課・情報システム部の連携により、継続的保守と共に定期点検を行い、毎年度の更新・修繕計画を立て、改善を図っている。また、火災その他の災害に対する防止ならびに対策についても1999(平成11)年に見直しを行い、防火・防災管理の徹底を図るとともに緊急時の対応

に備えている。

なお、地域住民への環境の配慮としては、バイクやサークル活動等による騒音について学生に注意を喚起するとともに、活動時間の自粛に努めている。

(2) 大学院における施設・設備等

a. 経済学研究科

(施設・設備等)

大学院研究科の教育研究目的を実現するための施設・設備等諸条件の整備状況の適切性

大学院独自の施設・設備としては、学生専用の研究室(大部屋)があり、個人専用の研究机とロッカーが割り当てられている。近年の学生増加に対しても個人スペースを狭めることなく配慮され、床の張り替えや修繕も前年度中に行われ、2005(平成17)年度には快適なスペースを実現することができた。また大学院専用の講義室には、これまで旧型の黒板や旧式の机が配置されていたが、すべて2005(平成17)年度に新調された。大学院専用のパソコンおよびプリンタが共同研究室内に設置されており、今年度パソコンについては今年度新たに買い換えられた。

(維持・管理体制)

大学院専用施設である学生研究室および大学院講義室は総合研究所管轄の「研究センター」内にあるため、これらの管理も同所の管理下にある。パソコン等の機器は教務部予算で購入しているため、同部の管理下にある。日常的にこれらの維持・管理は学生たちの自治に任されているのが現状であり、火気・窓の戸締まり等の全般的点検は総務部管轄下での守衛によって行われている。これまではこうした体制下でほぼ良好に推移しており、現時点でも特に大きな問題は生じていない。さらに念を入れるとすれば、定期点検を行うなどの体制を作ることも必要であろう。

b. 経営学研究科

(施設・設備等)

大学院研究科の教育研究目的を実現するための施設・設備等諸条件の整備状況の適切性

大学院研究科の教育研究目的を実現するための施設・設備等諸条件ということだが、教育上は、研究科教育課程の性格もあり、基本的には、相応の空間を有する講義室および情報処理室(PC室)等があれば事足りる。教員によっては、教員自身の研究室で講義を行っているケースもある。しかし今後、専門分野により、例えば、情報ネットワークの構築—理論と実際—これは単なる例示に過ぎないが、今までの対応では不十分となる場合も想定されなくもない。この点は今後見守りたい。

院生の研究室に関しては、専用の研究棟があてがわれており、大部屋(2分室)ながら、各個人毎に自分の机が確保され、一応の研究環境は整えられている。しかし、これは現有の院生数においてそうであるので、今後院生数が増加すれば、さらには他研究科の来年度大学院創設が現実のものとして具体化しているので、現行のままだと早晩不足してくるだろう。

大学院専用の施設・設備の整備状況

上の一部繰り返しになるが、大学院専用の施設・設備としては、教育上は、研究科教育課程の性格もあり、大学院専用の特別のものが必須とはならないかと思われる。院生研究室もいまのところ充足されている。

(維持・管理体制)

施設・設備等を維持・管理するための学内的な責任体制の確立状況

本点検項目は、財務部管理課の所管事項である。

実験等に伴う危険防止のための安全管理・衛生管理と環境被害防止の徹底化を図る体制の確立状況

本学本研究科は該当しない。

(3) 大学院の情報インフラ

a. 経済学研究科

本学では大学院独自の情報インフラは設けておらず、大学全体として図書館および総合研究所が総括的にこれらの構築および管理にあっている。

b. 経営学研究科

学術資料の記録・保管のための配慮の適切性

学術論文に関しては、総合研究所所管であり、その公開に当たっては当事者諒解の下、公開している。その他本項関連事項については、今のところ問題として取り上げられていない。

国内外の他の大学院・大学との図書館等の学術情報・資料の相互利用のための条件整備とその利用関係の適切性

近隣大学とのコンソーシアムの形成については、愛媛地区大学図書館協議会の申し合わせにより、県内他大学の学生・教職員の相互利用が可能となっている。また、県外他大学図書館等の学術情報・資料の相互利用に関しては、図書館相互貸借(ILL)サービスの充実に努めている。